

令和元年5月7日現在

機関番号：84601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16949

研究課題名(和文) 錆情報に基づく戦後復興期消滅古墳副葬品配列の復元研究

研究課題名(英文) Restration research based on rust infomation of grave goods arrangement in ancient tomb destroyed in post-World War II reconstruction.

研究代表者

初村 武寛 (HATSUMURA, TAKEHIRO)

公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：80634279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：戦後の復興期において、日本列島各地に存在した古墳は、調査を経ることなく消滅したのも少なくない。これは、本研究の対象とした愛知県大須二子山古墳についても同様のことがいえる。大須二子山古墳からは、甲冑類や馬具などの副葬品が出土しているが、それらの資料化が完全になされていたわけではなく、その副葬品が出土した埋葬施設の情報については皆無と言わざるを得なかった。今回、この副葬品の調査を通じて、副葬品同士の接合関係・錆着関係、埋葬施設の痕跡を抽出し得た。日本列島には、この大須二子山古墳のような事例が散見されるが、そうした資料について客観的な視点から同様のことがいえる可能性がある。その基盤作りを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

記録もなく失われたものから、形あるものを復元することは当然のことながら不可能である。しかし、今回の副葬品の丹念な調査と類似資料との比較検討を通じて、木棺の情報、副葬品同士の錆着関係を明らかにすることができた。

また、甲冑類については、遺存状況の良好な小札甲をはじめ、他甲冑付属具との位置関係を一定程度推測できる痕跡を認め得たので、同一埋葬施設内に一括して甲冑類が副葬されていたものと推測できる。これは甲冑類のセット関係を考える上でも重要視できる。こうした成果は、日本列島内に数多存在する出土時の情報が不明な資料群について、光を当てる一歩となると

研究成果の概要(英文)：In the post-war reconstruction period, there are many ancient tombs that have existed in various parts of the Japanese archipelago without being subjected to surveys. The same can be said for the Osufutagoyama kofun in Aichi Prefecture, which was the subject of this research. From Osufutagoyama kofun, there are excavated articles such as armors and harnesses, but it is not the case that their documentation has not been completely done, and it is impossible to say nothing about the information of the burial facilities from which the articles were excavated. It was not. This time, through the investigation of this funeral product, we could extract the bonding relationship between the funeral products, the bond relationship, and the trace of the burial facility. In the Japanese archipelago, there are cases like this Osufutagoyama kofun, but there is a possibility that the same thing can be said from such an objective viewpoint. I made the foundation.

研究分野：日本考古学

キーワード：考古学 戦後 消滅古墳 埋葬施設 錆 甲冑 馬具 青銅器

1. 研究開始当初の背景

愛知県大須二子山古墳より出土した甲冑群は、同時代の資料として遺存状況が最も良い資料のひとつとして数えられており、古墳時代甲冑研究の基礎資料とされる。しかしこれについては、報告書が1970年代に刊行されて以降再検討されることがほとんどなかった。

近年では、群馬県金井東裏遺跡出土甲冑のように良好な資料群の出現や既存の資料群の再認識により、研究の進展があった。

また、大須二子山古墳の遺物については、私が以前より調査研究の対象としていたが、過去の調査の中でこれまで知られていないものもしくは理解が変わるものが存在することに加え、鏝の有用な情報が存在していることをつきとめた。その情報とは過去に失われた埋葬施設の情報をも復元し得るものであった。

各副葬品の資料化に加え、副葬品から埋葬施設の情報を復元するだけの情報の取得が可能となれば、大須二子山古墳の意義づけの再考のみならず、日本列島各地に存在する同様の資料群へスポットを当てることも可能となるため、本研究ではその足掛かりの形成を主眼とする。

2. 研究の目的

従来、鏝は金属製遺物の形状をわからなくしてしまう厄介者のような位置付けであった。しかし、遺物とその表面に遺存する鏝の情報からこれまで不明であった情報を引き出すことができる点は有意義と言える。鏝のもつ情報の意味を理解し利用できるようになれば、多方面へ応用することもまた可能である。そのため、本研究では、愛知県大須二子山古墳出土遺物のすべてに着目してその遺物の構造や付着有機質・鏝情報を検討し、戦後の復興期に消滅した古墳の埋葬施設の復元検討を試みる。

大須二子山古墳は、継体朝期の尾張の大型前方後円墳とみられている。同時代は、尾張地域は断夫山古墳や味美二子山古墳など大型前方後円墳が築造された時期で、記紀にみえる尾張連に関連して大きな勢力を有した時期であろう。このような資料を検討の対象とすることで、本研究が単に資料の個別の復元研究ではなく、古墳の墳丘・埋葬施設・副葬品といった総合的な面から畿内中枢域と有力地方豪族との繋がりを考えていく基盤とも成り得る。

仮に、本研究で行う調査の手法が各地の資料に応用できれば、日本列島内各地に存在する出土状況や埋葬施設の構造が不明な既存の資料群へスポットを当てることもできる。そうした視点に基づいた遺物の観察、構造・用途の検討を主題とし、その方法論を模索する。

3. 研究の方法

大須二子山古墳については、当時の新聞記事こそあれ(図1)、埋葬施設の情報は伝聞情報を除くと皆無である。しかし、遺存状況の良好な副葬品群が存在することもまた事実として挙げておかななくてはならない。副葬品群は、出土したものですべてというわけではなく、現在失われてしまったものや知られていないものも多数存在したことは想像に難くないが、現存する甲冑類・馬具類は、極めて状態が良く、かつ埋葬施設の情報やそれぞれの副葬品の副葬位置関係を示す鏝の情報が少なからず遺存している。

今回、副葬品群すべての資料化を大きな主眼とし、従来見落とされてきた鏝の情報から副葬品群の位置関係・埋葬施設の形状の復元するための材料として検討を進める。



図1 大須二子山古墳に関わる新聞記事

4. 研究成果

本研究では、大須二子山古墳より出土した各副葬品の資料化(図2)をはじめ、類似資料との比較検討を行うとともに、研究の主題としてきた副葬品配列と埋葬施設構造の復元研究に着手した。

記録もなく失われたものから、形あるものを復元することは当然のことながら不可能である。しかし、今回の副葬品の丹念な調査と類似資料との比較検討を通じて、木棺の情報(図3)、副葬品同士の銹着関係を明らかにすることができた。

また、甲冑類については、遺存状況の良好な小札甲をはじめ、他甲冑付属具との位置関係を一定程度推測できる痕跡を認め得たので、同一埋葬施設内に一括して甲冑類が副葬されていたものと推測できる。これは甲冑類のセット関係を考える上でも重要視できる(図4)。

こうした成果は、日本列島内に数多存在する出土時の情報が不明な資料群について、光を当てる一歩となるとともに、より具体的な歴史像の構築へ寄与できる。

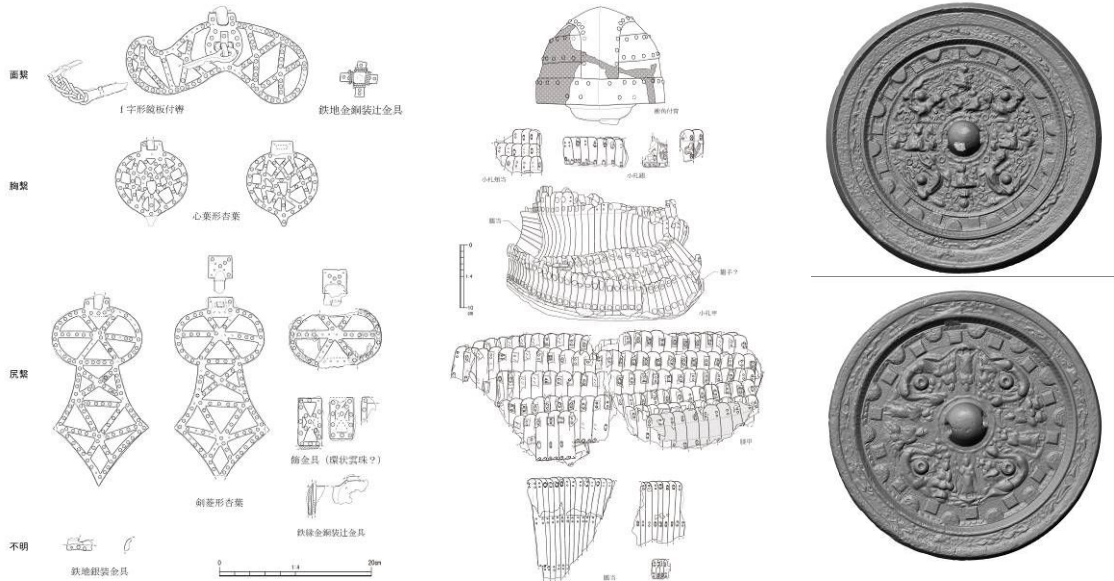


図2 大須二子山古墳の馬具（左）と甲冑（中）と鏡（右）

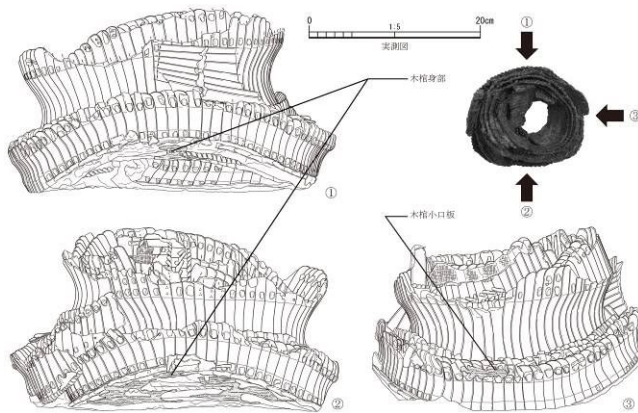


図3 小札甲に錆着する木棺痕跡

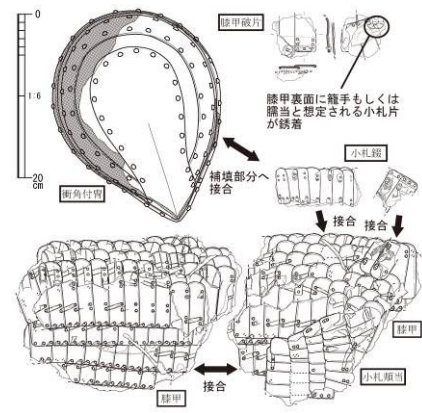


図4 甲冑類の接合・錆着関係

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- ・初村武寛 2017年 「古墳時代の武装と付属具」『月刊考古学ジャーナル』No.701 ニューサイエンス社
- ・初村武寛 2018年 「小札式甲冑研究の研究史と導入・展開の諸様相」『古代武器研究』vol.14 古代武器研究会
- ・初村武寛 2018年 「奈良国立博物館蔵 大和二塚古墳・珠城山三号墳出土遺物の調査 平成二十五～二十六年に行った保存処理により得られた知見から」『鹿園雑集』第20号 奈良国立博物館

〔学会発表〕(計1件)

- ・初村武寛 2017年 「小札式甲冑 研究の現状と展望」『第14回古代武器研究会』

〔図書〕(計1件)

- ・初村武寛 2018年 『錆情報に基づく戦後復興期消滅古墳副葬品配列の復元研究』

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：

番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。